



大事協だより

大島地区公立小・中学校事務職員協会 研修部
第34号 2011年10月21日発行



<総務担当副会長から>

アンケート等お礼



総務担当副会長 鳥越正人

地区事務職員研修会アンケート、大島地区起点表整備事業へのご協力ありがとうございました。すべての市町村からご回答をいただき、短期間でまとめることができました。集計するものにとっては、本当にありがたいことです。よくよく考えてみれば、普通、アンケートをとって100%の回収率などということはまず無いことです。感謝申し上げます。

アンケートの集計に当たっては、いろいろな意見感想をそのまま（明らかな誤字脱字は修正しますが）載せています。是非読んでいただきたいと思えます。会場一つをとってみても大勢は「良い」ですが、「悪い」と言う意見もあります。どこに重きを置くかで異なってくるのでしょうか。課長講話でも「とても良かった」と言う人もいれば「ちょっとね」と言う人もいます。男女、年齢、（いろいろな意味での）経験等違いがあるのですから、多様な感想があるのは当たり前なので、私のように年食った人間には、たぶん若い人であろうと思われる意見に新鮮さを感じたりもします。各理事より送られてきたファイルの文章を読みつつ「コピー」していく作業は私にはとても有意義な時間です。

意見の中に旅費請求の際の公文添付に関する批判の一文があります。全く書いてあるとおりのことなのですが、多くの若い方はご存知無いかもしれません。鹿児島県会計規則に、旅費の支出負担行為を行う際に必要な書類として「会議等開催通知文の写し」があります。公文添付の義務はここから生じるわけですが、今から十数年前まではこんなもの必要も無かったのです。ところが当時、県職員のカラ出張など旅費の不祥事が問題となり、公文添付を義務づける会計規則の改正が行われたのです。この際に意見の中に書かれているとおりの合意が県教委と交わされ、各教育事務所は学校宛てにその内容を通知しています。最初は合意どおりに処理されていましたが、そのうち教育事務所は事務の繁雑さに音を上げ、すべての公文添付を地区研修会など、お願いするようになりました。実際、大変な作業だったようです。この流れの中で、合意は合意であるからと拒否する人もいれば、お願いを受け入れる人も出てきたわけです。最初は拒否する人が多かったと思います。なぜなら、県の不祥事から起こったことを学校・事務職員に押しつけるなどという強い気持ちがあったからです。コピー単価も高かった頃だしね。しかしながら時がたつうちに、意識が変わる、あるいは世代が替るなどあって、当時の事どもが忘れ去られつつあります。教育事務所の職員も同じです。いざさつとも何も知らない事務所の職員から、さも当たり前のように公文添付を強要されれば、当時のことを知っている人は「怒り心頭に発す」でしょう。

起点表の整備については、理事会で、起点の決定が住所主義になったことに伴い、現起点の確認をすると同時に諸施設の再点検をしようという提案があり、大事協の事業として行ったものです。この住所主義というのも始まったばかりで、不都合な事例が生じているということも聞いています。今後変更されることも多いのだらうと思えますので、継続した事業にしたいと考えています。

今後とも大事協の事業にご理解ご協力をよろしくお願ひします。



<各地区からのたより>

今回の原稿は、①和泊町②宇検村③奄美市東部ブロック④奄美市西部ブロックから届きました。

次号は、12月発行予定です。①伊仙町②奄美市笠利ブロック③大和村④龍郷町へお願いします。

その他、各市町村の研修会での様子、様々な取り組み、写真・趣味等原稿お待ちしております。

(1) 和泊町事務職員会

①和泊町事務職員会

皆さんこんにちは。和泊町事務職員会です。和泊町事務職員会は、小学校4名、中学校2名の計6名で構成されています。今年厄年の先生を筆頭に、新規採用の先生までいますが、6名中3名が新採～3年目と比較的若いメンバーで、毎月の研修会をとっても和やかなムードで行っています。

本町では、年間11回の町研修会、3回の和泊・知名両町合同での研修会、両町での研修視察を計画しています。研修視察は毎年行っており、昨年度は、薩摩川内市・鹿児島市の小中学校と、鹿児島市の高等学校へと、幅広い分野を視察することができ、良い経験になりました。本年度は、北薩や霧島市方面への視察を予定しています。

今年度の和泊町は、共同実施の研究と町費事務の効率化をテーマに掲げています。1番の課題は共同実施についてですが、現在相互支援はしていますが、法的制度の確立がなされていないので、今後会全体で方向性を決め、教育委員会と協議していかなければなりません。また、年4回の自主検査に併せた相互自主点検も、今後進めていく必要性を感じており、第2四半期の点検から早速取り組む予定です。

研修会では、手当認定関係の確認事務や事例研修の他、世間話も交えながら、日常仕事を進めていく上で疑問に感じていること、困っていることなどを、ざっくばらんに語り合っています。今後、共同実施が始まったとしても、この温かい雰囲気だけは崩すことなく、お互い協力して仕事を進めていきたいです。

学校行事も多く、何かと忙しい日々が続きますが、皆さん、体調にはじゅうぶん留意されてお過ごしください。機会が有りましたら、ぜひ花の島沖永良部にお越しくださいね。お待ちしております！

②「1学期を振り返って」

和泊町立城ヶ丘中学校 西久保 輝

慌ただしく1学期が終わり、大島地区に自分の名が書かれた座席表を三度見した3月末の配置面接や、港に迎えに来てくださった先生方に、船上で恥ずかしい要求をされた4月の赴任日が、随分と昔のことに感じられます。

初めてのことだらけの1学期の業務でしたが、先輩事務職員の方々ののおかげで、大きな失敗をすることもなく、恙無く終わることができました。毎日のように電話をかけたがり、学校にお邪魔したり、時にはわざわざ来てくださったりと、貴重な時間を割いてまで、指導をしてくださった町の先輩事務職員の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。夏休みに入った今は、突然町の備品監査が入り、学校を駆け回っています。備品の確認をされていて気付いたことは、自分が学校についてまだまだ何も知らないということでした。初めて入る部屋に初めて見る物、実は補修が必要かもしれない個所など、小さな発見をいろいろとすることができました。

城ヶ丘中学校は、全校生徒が60人にも満たない小さな学校ですが、皆素直で素朴な可愛い子どもたちで、休み時間や昼休みに遊びに来る子どもたちから、毎日元気をもらっています。また野球部の副顧問として部活動にも携わっており、先日行われた奄中体連では、本校としては久しぶりの島外大会での勝利を収めることができ、県大会出場を来年の目標にして、生徒たちと頑張っています。

1学期はわからないことだらけで、書類の提出期限を守る、仕事に優先順位をつける、といった、社会人としてはある意味当たり前のことをするのが精一杯だったので、2学期からは、少しは頼りになり、役立つ事務職員を目指して精進していきたいと思えます。

(各地区からのたよりを休憩して) 余談ですが・・・

先日、県外の水族館に遊びに行きましたところ、「カピバラ」がいました。「なぜ水族館に？」と思ったのですが、ネットで調べたところ、カピバラは水かきを持ち、5分以上水中に潜ることができるため、カピバラを飼育している水族館が数カ所あるそうです。



とても人気者でした。

背景と区別しづらくて
ゴメンなさい。

(2) 宇検村事務職員会



①宇検村事務職員会

宇検村立田検中学校 岩城 智典

宇検村は奄美大島の南部に位置し焼内湾を囲む14集落、人口約2千人からなる小さな村です。自然が豊かで「湯湾岳」「新小勝の滝」「タエン浜」などの観光名所や群島随一の花火大会と称される「どんと祭り」黒糖焼酎「れんと」などの名物が多数ある風光明媚な土地です。宇検村には単独校が2校、小中併設校が3校の合計8校の小中学校があります。それでは宇検村事務職員部会を紹介させていただきます。

宇検村事務職員部会は、2名の事務職員で構成しています。今年度は研修テーマに「学校事務の相互支援の実戦に向けて」を設定し研修していますが、部会の構成が新採と中堅の2名になりますので、実際は新採の疑問質問に対して、中堅職員が条例規則に基づいた返答をするといった研修になります。鋭い質問にひやひやすることも多いことから、さしあたり、新採と中堅事務職員の相互研修といったところでしょうか、和気藹々楽しい研修会になっています。

今年度の新しい試みとして研修会の中で給与・勤務等の相互点検及び4半期ごとの相互自主検査を取り入れてお互いの仕事内容を確認しながら仕事を進めています。同じ事務職員の仕事を違う視点から確認できる面では、お互い刺激があり、よい研修ができています。

最後になりますが、来年度にかけては近隣の市町村と一緒に合同研修会が開催できるような態勢が作ればより深まりのある部会になるのではと思っています。

これからも宇検村事務職員部会をよろしく願います。

②「新規採用の5ヶ月を振り返って」

宇検村立田検小学校 角 拓亮

初めて奄美大島に来て5ヶ月が過ぎた。公私にわたり初めての経験が多く、仕事と毎日の生活で大変だったが、職場や集落の方のおかげで、人として事務職員として充実した日を過ごすことができた。

4月は初めて体験する集落での暮らしに戸惑ったが、集落の方々に優しく迎え入れられ、今では集落の一員としてお世話になっている。仕事の面では先輩の事務の先生に助けていただいた。宇検村には事務職員は2名しかいないため、先輩の事務の先生に毎日電話したり直接学校に行って話を聞いたりした。迷惑をかけたが、先輩の事務の先生はいつも嫌な顔ひとつせず、むしろ私が楽しく仕事できるように気を遣って下さった。将来は私も先輩のような事務職員になりたいと思う。

村費事務でわからないことがあれば、教育委員会に直接話を聞きに行った。県費事務では兼務校が2校あるため、月に数回本務校を離れ、他校の先生方と話をするので、多くの人と話をする機会に恵まれていると思う。普段から人付き合いを大切にして、仕事しやすい環境を作り周囲の方から信頼される事務職員になれるように頑張りたい。

(3) 奄美市東部ブロック事務職員会

奄美市立東城小中学校 久保 智人
奄美大島に来て1年半が経ちました。24年前は小宿中の生徒でしたので、その時以来の奄美での生活です。たまに当時の同級生と会えるのでうれしく思っています。

奄美市東部ブロックは、旧名瀬市と旧住用村の学校事務職員が合同で研修を行っているブロックです。赴任してきた当時、東部ブロックの研修ではよく戸惑うことがありました。奄美市として合併している割には名瀬地区と住用地区で予算の配分方法や事務処理方法などが違ってきますし、また、名瀬地区と住用地区では市教委からの指示に違いがあったりしてお互い話が合わないことも度々あります。現在は、いろいろ相違する部分にも慣れてきましたが、以前は合併の時に事務処理等も統一してくれたら良かったのにと不満に思うこともありました。

1年半の間にいろいろありましたが、昨年10月20日の豪雨災害は大変でした。特に東部ブロックの住用地区は崖崩れ等で一時孤立し、1日から数日の間、学校から職員や児童生徒が帰宅できない状況が続きました。東城小中学校は、校舎1階部分が浸水又はほぼ水没しました。また、多数の備品が破損又は流されるなどして被害に遭いました。児童生徒に被害がなかったことは不幸中の幸いです。その後は、災害見舞金請求事務や災害備品の請求等の事務に追われることになりました。現在はほとんど復旧しましたが、災害備品がまだ届いていなかったり、近くの崖崩れがまだそのままになっていたり災害から1年近く経ちましたがまだまだ傷跡が残っています。

東日本大震災や各地の豪雨被害をはじめ全国的に大きな自然災害に見舞われています。奄美豪雨災害の時は予想外の急激な増水に驚きました。災害は予測がつかないだけに皆さんも十分に注意して下さい。

① 水害時の東城小中学校校舎前庭



2011年9月25日～26日にかけて、奄美大島（特に北部）を襲った豪雨も、河川の氾濫・崖崩れ・床上床下浸水等の大きな被害をもたらしました。

② 現在の東城小中学校校舎前庭



(4) 奄美市西部ブロック事務職員会

奄美市立芦花部小中学校 針原 和恵
奄美市西部ブロックでは、小学校5校、中学校3校、小中併設校1校の9校9名で月1回の研修会を行っています。

毎回研修会の冒頭では、それぞれの学校での認定関係や旅費関係の事例について紹介し、全員で検討する時間を設けています。特殊な事例があった場合でも全員で協議することで解決でき、また解決に至らなくても、代表者が教育事務所や教育委員会に質問を挙げ回答を全校にまわす流れができていますので、とてもためになっています。

また、今年度は、就学援助事務の変更や、備品管理システムの導入が予定されている問題などがあり、教育委員会や他のブロックと協議することが増えている状況です。西部ブロックでは、「就学援助事務担当」と「備品担当」の係りを置き、教育委員会との協議などに当たっています。係りは、協議内容や結果を研修会に持ち帰り現状や今後の流れなどについて全員が共通理解を図ることができています。

さらに昨年度からの引き続きの課題として、書類のファイリングの研究を行っています。各校それぞれのファイリングの仕方をまとめ全員で見ることによって、様々なファイリング方法を知ることができ、それぞれ自分のファイリングに生かしていけるのではないかと思います。今後は、引継文書の中の文書配置一覧として項目を統一したらいいのではという案も出ており、検討していく予定です。奄美市では、共同実施の導入に関する協議が難航している現状がありますが、目の前の諸問題に取り組みながら、導入までの期間に研修会の中でできる限りの準備をし、研修を深めていけたらと考えています。



連絡をお願いします



慶弔規定に該当することがありましたら、各地区の理事の先生を通して、大事協執行部にお知らせください。